

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700110		
法人名	プレステック株式会社		
事業所名	グループホーム しらかば園		
所在地	〒028-8602 久慈市山形町川井10-55-1		
自己評価作成日	令和4年9月5日	評価結果市町村受理日	令和4年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境 ・地域行事への積極的な参加により、地域とのつながりを持つ ・畑仕事で収穫した野菜でのおやつ作り等実施し、自宅にいる時のように過ごす ・外部からのボランティアを受け入れ、楽しく過ごす時間を設けている ・停電に備え、電源確保のため自家発電装置を2台設置している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は旧山形村の中心地区に立地し、久慈市役所山形支所や消防支署、駐在所、山形診療所等の公共機関が近接し、利便性には恵まれている。しかしながら、地域全体としては市中心部との距離があり、人口減少が続いている。コロナ禍のため面会制限は続いているが、事業所としては利用者の希望が多い外出支援に力を入れており、人込みを避けながら、廃校地でのお花見や平庭高原でのツツジ見物、近所で買物やソフトクリームを楽しむなど、工夫しながら外出支援を行っている。また、食事においても、ほぼ毎日のおやつ作りを楽しんだり、利用者の希望を取り入れたメニュー作りなどを通じて、利用者が楽しむ工夫を重ねている。特に身体拘束のない介護の実践に取り組み、毎月の職員勉強会を通して実践的な課題解決に注力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の方針・理念を職員全員で共有し、その実践・実現に努めている。職員個人の理念を入口にかかげ目標をもって介護についている。	運営法人の基本理念を玄関等に掲示し職員での共有を図っているが、年度当初に全職員がそれぞれ考えた、分かりやすい目標を「わたしたちの理念」として廊下に掲示し、ケアの基本としている。職員は出勤時、自分の理念を唱えて仕事を始めている。	各職員が個別に「わたしたちの理念」を作成しており、これを基に話し合いを進め、分かりやすい理念又は介護指針を作成することが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため各種行事を実施できないため、早期の終息を願っている。	町内会には加入していないが市の広報は配布され、年2回の草刈り作業には職員が参加している。近所の商店やカフェに利用者が出掛けたり、保育所の園児たちが散歩の際には窓越しに手を振っている。コロナ禍で地域との交流機会が減っており悩みの一つとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同様、コロナ禍のため実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため会議を開催できないため、お便りを発送し施設の様子をお知らせしている。ほとんどが電話連絡になっている。	運営推進会議の委員には地域関係者として区長や民生委員等が委嘱されているが、コロナ禍以降は集合開催がなく、限られた特定の委員に資料を送付するだけとなっている。この間に委員の変更もあると思われ、現状の把握が必要となっている。	事業所の運営全般に意見や質問を話し合う運営推進会議の開催は必須事項であり、早急に委員の異動を確認のうえ、まずは書面会議の形で開催することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の支援センターケアマネ等と電話による情報交換を密にしている。	市役所支所の職員を運営推進会議の委員として委嘱しており、定期的に資料を送付している。日常的には市の地域包括支援センターと電話やメール又は直接出向いて相談や情報交換を行っている。要介護認定申請に際しては、職員が広域連合に出向いて代行して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業開始時から現在まで身体拘束はおこなっていない。身体拘束適正化委員を中心に、スピーチロックなどの何気なく出てしまうものについて、勉強会で繰り返し取り上げることで、職員全員で共有できるように開催し、併せて回覧での周知に努めている。	身体拘束適正化委員会は職員5人のメンバーで2ヵ月毎に開催しており、スピーチロックやベッド柵、履物などの具体例を用いた勉強会を、毎月の職員会議後に30分程度開催している。勉強会ではスピーチロックの話題が多く、少しずつ改善されている。ベッドセンサーの使用者はいない。	

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の際、勉強会をおこない何が虐待にあたるのか、具体例を挙げて周知をおこない、職員同士での共有を図っている。継続し勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に該当する方はいないが、制度内容については、今後も機会を捉えてその理解、周知に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解していただけるよう、丁寧にゆっくりと説明し、納得して同意いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者・家族の意見を何気ない会話から引き出すよう努めている。外出希望には、コロナのこともあり思うようにならないが、近所の畑へ散歩や花見ドライブなどおこなっている。	利用者全員が会話で意思を伝達できる状態であり、実家に帰りたい等の話がよく出されている。家族には利用者の近況写真を職員の手書きコメントを添えて送付しており、返信をいただく場合もある。コロナ禍のため面会は窓越しとなっているが、運営に関する意見はあまり出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議等で意見交換をおこない、良いことは取り入れ運営に反映させている。	職員からは毎月の職員会議のほか、朝の申送り時などに良く意見等が出されており、通院時間の短縮等のため、職員が出勤時に病院に立寄って診察券を出してくるよう改めている。管理者との個人面談は年1回行われ、書面で職員から意見を聞き取ることも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力やアイデア、また勤務状態を勘案した中で給与水準の引上げ等を図るとともに、処遇改善を目指している。会社合併を機に子育て支援制度、介護支援制度等が創設された。		

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに応じた研修参加を実行したいが、コロナの影響で思うようになっていない。今後、状況が改善されたら積極的に推進したい。開設以来、各種資格所得を推奨しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の勉強会等に参加させたいが、コロナの影響で困難となっており施設内での勉強会を実施している。また、同業者とは電話での交流であるが近況など情報交換し職員会議で提示している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な説明と丁寧な聞き取りを心がけ、安心した生活環境が保てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な聞き取りに努め、要望等について家族と職員が共有できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、担当ケアマネ、家族の意向にアセスメントから今必要とする支援を提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという共同体で互いに寄り添い生活する中で、利用者・職員共に支え合い信頼できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告、連絡をこまめにおこない、情報共有、認識が一致するよう努め、共に支えていけるよう努力している。時には手紙等で様子をお知らせしている。		

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ感染防止のため面会、外出ができないことから電話での交流に努めている。	近所の馴染みの商店に衣類購入やソフトクリームを食べに出かけているほか、ミニドライブと併せて実家の近辺に立寄ったりもしている。コロナ禍のため、友人や知人等の来訪機会はなくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仕事の取り合い等が発生するので当番制を設け、声掛けなどもこまめにおこない孤立せずにごしている。長寿の方、腰痛持ちの方をいたわる様子も見られ、今後も継続するよう努めていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後に、現在利用中の施設職員と連絡を取り様子を伺っている。相談があれば受け入れるなど、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が窓口となり、利用者の希望等を職員間で共有し、コロナ禍で思うようにならない面もあるが、できる範囲で希望に沿うよう努めている。	全ての利用者が会話できており、「お出かけしたい」とか「美味しいものが食べたい」などの希望が多く話されている。これに応えるため、近所を散歩したり、毎日おやつ作りをし、日曜日には手作り料理を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話、本人からの聞き取りなどから一人ひとりに寄り添い、サービス支援へ反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを密におこない、利用者の状況を常に把握するようにしている。記録も不十分な時があるため、勉強会をおこなっていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当が窓口となり、利用者の様子や希望等をケアマネに伝え、本人との面談をおこない、話を聞いてケアプランへ反映させている。	新規の利用者では1か月の暫定プランの後に、カンファレンスを開催し正式プランを作成している。介護プランは居室担当職員の意見をもとにケアマネが作成し、全職員参加のカンファレンスで決定されており、概ね3か月毎の見直しとなっている。モニタリングは職員会議の際に全職員で行っている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は不十分で足りない点などがまだあるため、研修などを実施し、職員の意識など統一していきたい。これも継続している。ケース記録のほか、ノート等利用し情報共有しながら介護計画へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で利用者ニーズに合うサービス提供に努力している。多機能化についても職員間で共有しながら支援、サービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館(2回/月)地元商店でのおやつ材料、買い物等を楽しんでもらっている。(現在はコロナ禍により中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常受診以外は家族へ連絡してから受診し、結果報告をおこない、また別の医療機関を受診した際は、主治医に必ず報告している。	協力医療機関で多くの利用者のかかりつけ医である地元の山形診療所の医師が病気で不在となり、週3日の派遣医師の診療に頼っている。精神科の診療は距離のある久慈市内まで行く必要があり負担となっているほか、緊急時の対応でも救急病院まで距離があるのが事業所の実情である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化であったり、気付いたときは必ず看護師へ報告し、指示を仰ぎ医療機関へ伝達している。受診・治療、結果についても申し送りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供をおこなうようにしている。入院中は状況把握に努め、退院時も医療機関からの情報を共有し適切なケアをおこなえるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い時期から、終末期には特養等の入所申請を勧めたり、他の医療機関等と相談し引き継ぐなど、本人や家族と相談し支援している。	重度化や終末期の対応として看取りの希望は本人や家族から出されることもあるが、協力医師の確保もできないため取り組んでいないのが現状である。このため、要介護4以上になった場合には、特養ホーム等への入居申込みを勧め支援しており、住み替えとなる場合が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務体制を整え、急変や事故発生に対応できるよう努めている。こまめに体調の確認をし、状況に応じて救急対応が出来るよう、研修・書類等の整備などをおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自力での避難が難しい利用者対応のため、車いす利用の研修等を実施し、併せて避難場所の確保、職員の初期対応などの研修をおこなっている。利用者に対して災害時の対応等について話している。(職員会議時研修している)	立地場所はハザードマップの浸水想定地域外となっている。高齢者等避難の段階での避難先へは増水時に危険な橋を渡らねばならず、事業所での待機とする方針である。今年予定している火災想定での避難訓練は、薄暮時の訓練とする予定である。水や食料を備蓄し発電機も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人へ支援をおこなう場合、声掛けや尊厳を損ねないようケアプランに従い支援をおこなう事ができている。担当者が中心となり、訴えがある場合は、傾聴を心がけたうえで対応している。結果は職員間で、情報共有し対応している。	着替え時や尿取りパッド交換、清拭の際には居室でドアを閉め、小声でケアを行っている。利用者からの排泄の確認には、1番(便排泄)2番(尿排泄)という言葉としている。失禁等の際には、優しい声掛けで本人の心情に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望や訴え等、自己決定を支援するとともに、利用者の家族を交え支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの居場所を確保し、読書など趣味に応じた支援をおこなっている。外出を希望するも、コロナ禍により実施しがたい状況にある。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝及び入浴後など利用者一人ひとりの服装確認をおこない、希望に応じて体調確認をしながら、おしゃれできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の清掃、食後の片付けなど、利用者のADLに応じて対応している。希望があった時などは優先して活動できるよう支援している。日曜日は利用者の好みをメニューに取り入れ、一緒に調理の準備、片付けをしている。誕生日ケーキ等も職員と一緒に手作りする。	食事は法人の代表が経営する食堂から日曜を除く毎日、三食とも運ばれてくる。日曜日には、利用者の希望を取り入れたメニューとして職員が手造りで提供している。利用者は山菜等の下拵えやテーブル拭きなどを手伝っているほか、ほぼ毎日、職員と一緒におやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては麦茶、コーヒーなど変化をつけて取ってもらっている。食事は医師から指示のある方は、それに従って提供している。水分を取りたがらない利用者には、ゼリーやところてんなど、他の物で代用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。入れ歯洗浄も毎日おこなうよう、声掛けして支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のリズムに合わせて声掛けしている。トイレでの排泄ができるよう声掛け、支援をしている。	利用者全員がトイレで排泄できている。オムツ使用者はなく、全員がリハビリパンツとパッドを併用している。排泄チェック表により排泄状況を確認し、適時の声掛け誘導を行うことで失禁の回数が減り、パッドの汚れも軽減している事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、軽運動等予防に努めている。午前、午後と一日2回のしらかば園体操などで体を動かし、楽しみながらおこなうよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	週に2回入浴し、入浴日以外は足浴をおこなっている。通院等がある場合は、曜日を変えておこなっている。	コーヒータイムが終わった後の午前中に週2回の入浴とし、入浴のない日には足浴としている。入浴や異性介助を嫌う方はいない。入浴中は職員とのおしゃべりを楽しみ、時には家族の話も出る。職員は利用者の皮膚等の全身チェックも行い、変化を見逃さないようにしている。	

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使っていた毛布、タオル等なじみのものを持参していただき、自宅にいる時の感覚で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し、飲み忘れ、飲みこぼしがないように確認している。薬情はファイリングして、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛け、手すりの消毒、テーブル拭き、掃除の後にはコーヒー、ココア等で一服してもらう。その他、洗濯物をたたむなど、できる限り手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、可能な限り実現に向けた検討をおこなっているが、コロナ禍の中、ほとんど希望に沿うことが出来なかったが、今年も町内の廃校となった校庭に咲く桜を見にドライブした。又、近くのコーヒー屋さんへドライブし、コーヒーを飲んだりして楽しんでもらった。	コロナ禍の制限がある中でも、廃校地でのお花見やツツジ見物、近所のカフェや買い物など、人込みを避けて外出支援を行っている。また、駐車場で流しそうめんイベントの開催や、丸太イスに腰掛けての日光浴なども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、現金は日常的に、身近には持たせないことになっていて、希望や本人の申し出内容を都度考慮、検討し能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者、持っていない利用者双方いて、持っている利用者は自由に使用している。手紙については、希望に沿って支援することとしている。希望者には、園の固定電話を活用して、家族の声を聞いてもらえるよう支援している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を考慮した内容の制作活動をおこない、それらの作品で装飾している。また、コロナ禍に伴い、換気に細心の注意を払いつつ、温度、湿度にも気を配った措置をしている。	白を基調とした壁面には、ぶどうなど季節感ある利用者の作品も飾られて暖かい雰囲気となっている。食堂を兼ねたホールのほか、廊下も使ってゲームなどのレクリエーション活動を楽しんでいる。ホール内はエアコンで適温に管理され、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の入れ替わりや、様子の変化に合わせたテーブルやソファの配置換え、座席位置の支援をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの家族からの贈り物や、家族の写真を飾ったり、小物や置物、花等を置き、本人が過ごしやすい環境づくりを心がけている。	各居室ではエアコンとヒーター、空調機で適温に保たれ、ベッドとハンガーラック、衣装ケースが備付けられている。利用者は、それぞれに家族写真やお気に入りの使い慣れたものを持ち込み、壁には塗り絵等の作品を飾って居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や日常の本人の様子などを考慮し、その中でできることを見つけ、可能な限り自立した生活を送れるように、声掛けや促しをして支援している。		